

平成25年6月 京都府議会文教常任委員会(平成25年6月28日)での主な質疑応答

(インターネット中継録画から個人が作成したもので正式議事録ではない)

議員(委員)質問要旨	京都府担当者回答要旨	
<p>専門家会議についてであるが、そもそもスタジアム予定地を決定す前に、このような調査検討を行うべきではなかったのかと思うがどうか。</p>	<p>建設候補地の選定にあたっては、府内市町村に公募し、用地調査委員会で検討を進めてきた。アユモドキの保全については、亀岡市から、共生ゾーンを設けることにより自然生態系を保全し、整備をすることが可能であると、また大学の先生や環境保護団体と十分相談を行い保全に努めていると、また地元環境団体の理解は得ているとの回答を得て、亀岡に決定したものである。</p>	<p>文化環境部 部長</p>
<p>決定した後、結果として、このように専門家を招いて調査検討しなければならなかったということは、当初、亀岡市が共生ゾーンで大丈夫だと言っていたことが、そうではなかったということになるのか。</p>	<p>そうではなかったという訳ではない。京都府では、具体的にスタジアムを建設する際に、アユモドキや自然環境になるべく影響がでないような工法をどのようにしていくかを調査するなど、亀岡市と京都府が連携をして必要な調査を進めているものである。</p>	<p>文化環境部 部長</p>
<p>そうであるならば、やはり、予定地を決定す前に、このような調査検討を行うべきではなかったのかと思う。 魚類学会の意見にあるノーネットロスというのはどのような考え方がか。</p>	<p>ノーネットロスというのは、生物多様性への影響を最小化にしながら、その後に残る影響を他の生物多様性の復元等を行うという貢献活動によって補って、生態系全体での損失をプラスマイナスゼロにするという考え方と聞いている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>今のままではマイナスになるから対応が必要だということか。</p>	<p>例えば、夏の間アユモドキが遡上してきている用水路を埋め立てる必要が生じた場合には、別の方法でリカバーして差し引きゼロにし、出来れば現状よりもプラスにもっていくという考え方で対応していくということである。</p>	<p>文化環境部 部長</p>
<p>本会議での知事答弁でも自然と共生するスタジアムの整備を進めてまいりたいということだが、当初、亀岡市が掲げていた共生ゾーンというのは平成21年に策定された将来的構想であって、今回ような大規模な開発、スタジアムを造るということは前提になかったものである。したがって、共生できるかどうかを今から検討しなければならない現状であると思う。候補地を決めてからこのような検討を行うことは本末転倒であると指摘せざるを得ない。</p>		
<p>専門家会議の現調査や検討はどこからの要請で行っているのか。またアユモドキの他に大きな問題というのはあるのか。</p>	<p>魚類学会をはじめいろんな団体からもきちんと調査をする必要があるとの意見もあったし、われわれも整備にあたっては環境調査は当然やっていくべきと考えており、専門家の先生方に集まっていただく会議を設けたものである。 アユモドキ以外の問題ということについては、現在、亀岡市で、他にどのような動植物がいるのか問い調査を、先生方の意見を聴きながら始めているところである。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>プラスマイナスゼロにするということ、また、現状の環境が必ずしも良くないとも聞かすが、今具体的に何かやろうとすることはあるのか。</p>	<p>具体的な対策については、今後の調査結果を踏まえ、専門家会議において検討していくこととしている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>専門家会議はいつまでのスケジュールでやっていくのか。</p>	<p>決まっているわけではないが、通年の環境調査を実施するのが原則であり、この1年間調査をして、並行して対策の検討も進めていきたいと考えている。</p>	<p>文化環境部 理事</p>
<p>補正予算の中の専用球技場整備費200万円であるが、運営専門家会議の設置費用ということだが、具体的にここでどのような検討するのか。</p>	<p>今後の利活用、民間資本の導入、運営管理などについて検討するものである。</p>	<p>文化環境部 部長</p>

<p>アユモドキなどの環境問題の検討を今行っているところであり、それらの決着がつかないと整備ということにはならない。ここで整備費をさらに計上するのは本末転倒であることを指摘する。さらに桂川の治水問題についても、しっかりと検討していく必要があることも指摘しておく。</p>	
議案に関する討論	
<p>議案(補正予算)に対する反対意見の中で、スタジアム予定地を遊水地と言っているが、そこは遊水地ではない。営農地であり、やむなく水に浸かる土地である。そういう言い方をすれば、大雨で水に浸かったところは全て遊水地と言わなければならない。訂正を求める。</p>	<p>本会議でも実質的に遊水機能を有するということではあるので、謝罪も訂正もしない。</p>
<p>本会議で言っているから正しいとはならない。認識が間違っているので、常任委員会においてあえて指摘をしている。考え方を改めていただき、訂正または何らかの方法で表明願いたい。</p>	<p>(委員長:後日、事実関係を精査し、正副委員長で対応を検討することとする)</p>

平成25年6月 京都府議会文教常任委員会(平成25年7月1日)での主な質疑応答

(インターネット中継録画から個人が作成したもので正式議事録ではない)

議員(委員)質問要旨	京都府担当者回答要旨	
<p>スタジアムに関する知事答弁で、「亀岡市と連携し、必要な調査を実施し、桂川河川整備計画と整合を図りながら治水上の対策を講じることにしている。アユモドキなど自然環境の保全に必要な対策をしっかりと行い、自然と共生するスタジアムの整備を進めてまいりたい」とあったが、いずれもスタジアムの予定地を決定する前に行うべき調査であったのではないかと考えるがどうか。</p>	<p>用地選定にあたっては、用地調査委員会において様々議論していただいていた。その際に、アユモドキの共生ゾーンについて亀岡市から提案され、具体的な内容や地域の環境保全団体の理解などを確認し、また遊水機能の問題についても確認したところ、特に問題ない、市が責任を持ってやっていくという回答を得られているものである。</p>	文化環境部 部長
<p>市が責任を持ってやると回答したというが、京都府が候補地を決めるものであり、市の言うことをそのまま鵜呑みにするのではなく、しっかりと府が調査検討した上で決定するものである。したがって、決定してからそのような調査検討をしているのは、本末転倒であると思う。</p> <p>特に、共生ゾーンについて、先日の委員会で専門家会議の報告があったが、その報告でも本当に共生できるのかどうか不安になる様な内容であった。共生というものは中途半端ではなく、本当に共生できるという保証がなければいけない。その点はどのように考えているのか。</p>	<p>亀岡市が責任を持ってしっかりと対応する言っており、これは府と市の信頼関係であると思う。京都府としては、スタジアムを建設する際に、アユモドキや自然環境になるべく影響がでないような工法をどのようにしていくかを調査しているところである。しかし、府と市がばらばらに調査してうまくいかないのでは、専門家会議も一緒に開催し、連携して調査にあたっているということである。</p>	文化環境部 部長
<p>そこまで言われるのであれば、中途半端に終わらせずにしっかりと調査検討をするようお願いする。</p>		
<p>スタジアム計画に関して、ファン、サポーターなどの意見をどのように反映されたのか。</p>	<p>具体的には京都府サッカー協会やラグビー協会、大学のアメフト連盟、或いは京都府サッカースタジアムを推進する会などの意見を聴きながら、また高校生達の声も聴きながら基本構想(案)を策定してきたところである。さらに今後具体的に検討を進める中で、関係団体やファンの意見を聴きながらとりまとめていきたいと考えている。</p>	文化環境部 部長

平成25年6月 京都府議会スポーツ振興特別委員会(平成25年7月2日)での主な質疑応答

(インターネット中継録画から個人が作成したもので正式議事録ではない)

議員(委員)質問要旨	京都府担当者回答要旨
------------	------------

<p>スタジアムに伴う専門家会議の意見では、現状でも非常に厳しい生息状況であるとの意見があるが、このような中でも、まだここでの建設が可能と考えているのか。</p>	<p>建設候補地の選定にあたっては、府内市町村に公募し、用地調査委員会で検討を進め専門家の方々から意見を聴いて、亀岡を適地として決定した。アユモドキの保全については、亀岡市から、委員会において、共生ゾーンを設けることにより自然生態系を保全し、整備をすることが可能であると、また大学の先生や環境保護団体と十分相談を行い保全に努めていると、また地元環境団体の理解は得ているとの回答を得て、亀岡に決定したものである。</p>	<p>文化環境部副部長</p>
<p>亀岡市から共生ゾーンの提案があり決定したということであるが、専門家会議の状況を聴くと少し違っているのではないかと思う。共生ゾーンを残したからといってアユモドキの保全ができるかという、すでに限界に近いという表現もあり、今の環境に手を付けることそのものが生態を脅かすことになる考えられる。このように専門家会議では、用地選定委員会の時の亀岡市の提案とは異なる知見がでてきている中で、京都府としては計画の見直しも含め、専門家会議で意見を聴いていると理解してよいか。</p>	<p>京都府としては、スタジアムを建設する際に、アユモドキや自然環境になるべく影響がでないような工法をどのようにしていくかを調査しているところである。アユモドキの保全のための周辺環境の実態調査や対策については、原則として亀岡市にお願いするものであるが、市だけに任せるのではなく、京都府も一緒に必要な調査に取り組んでいるところである。</p>	<p>文化環境部副部長</p>
<p>専門家会議での現状でも限界に近い状況であるという意見は、当然、亀岡市からの提案の中にはなかったはずである。したがって、計画の変更も含めて考えていく必要があると思うが、そのような考えはないということか。</p>	<p>アユモドキの現状は、地元の努力で何とか生息しているという状況である。農家の方がファブリダムを産卵時期に合わせて立ち上げ、水を貯め、ファブリダムの下流にいるアユモドキを人為的に上流に移すという作業でもって何とかつないでいる状況だということをまずご理解いただきたい。 このように、現状が良好でないため、現状を改善する、例えば人為的なものでつないでいる状況を改善していくという、いわゆる攻めも保全というものを、今回のスタジアム建設と合わせて実施していけないかという期待もある。</p>	<p>文化環境部副部長</p>
<p>地域の農業活動とアユモドキの生態がマッチしてそこに生存してきたということだと思う。こうした状況が残されている極めて貴重なゾーンであると思う。人為的な保護活動もあるだろうし、住民の努力もあると思う。だからそうしたものを残していくということが必要だと思う。 先ほどスタジアム建設と合わせて、攻めの保全をやっていくんだということであるが、今が限界的な状況であり、魚類学会もこの開発が絶滅につながるのではないかと危惧されている。 建設をしてアユモドキをどうやって残していくのかではなく、どうやってアユモドキを残していくかに軸足を置いた検討を強く求めておきたい。</p>		
<p>次に地下水について、スタジアム建設がどのような影響を与えると考えて調査しているのか。</p>	<p>アユモドキの越冬場所は、地下水の湧水と深く関係していると言われており、保全の観点から調査をしているものである。</p>	<p>スポーツ振興室参事</p>
<p>この話も用地選定の時にはなかった新しい課題である。亀岡市からの話にはなかった状況の中で、用地選定がされたのであり、やはり進め方として問題である。にも関わらず、亀岡市が大丈夫だと言ったから選定したという説明では駄目だと言わざるを得ない。京都府として、一旦計画を止めてでも、見直しをしていく必要があることを指摘しておく。</p>		

<p>アユモドキの保全対策の検討調査の中で、スタジアムの建設は危険であると判断された場合にはどのような対応をするのか。</p>	<p>専門家会議においてはノーネットロスという考え方が示された。これは、生物多様性への影響を最小化しながら、その後に残る影響を他の生物多様性の復元等を行うという貢献活動によって補って、生態系全体での損失をプラスマイナスゼロにするという考え方である。</p> <p>例えば新しく生息域を造っていく、ファブリダムに魚道を設けるなど様々な対策を工夫する中で全体として生態系を維持してはどうかという意見も出されているところである。これから具体的な検討をしていくものであるが、京都府としては、建設主体として自然環境に配慮した工事の進め方を検討し、亀岡市としてはアユモドキの保全対策として、例えばサンクチュアリなどを検討していくという役割分担のもと、専門家会議を立ち上げて検討を進めているところである。</p>	<p>文化環境部副部長</p>
<p>いろいろ検討していくのは理解しているが、それをどのようにして確認し、説明していくのか。</p>	<p>アユモドキは特殊な魚であるため、専門家の方々に集まっていただき検討しているものである。また、専門家会議については、生息場所の特定するものを除き公開している。結果についても公開していくこととしている。</p>	<p>文化環境部副部長</p>
<p>会議の傍聴やHPに掲載することはこれまでからやられていることである。建設ありきで議論を進めるのではなく、現状でも限界であるなら、如何に保全していくかを前提にした検討を強く求める。</p>		
<p>スタジアムに関して今問題に挙げられているものは、候補地選定の段階で既にクリアされていないといけないものではないかと思う。アユモドキの他にも治水の問題がある。霞堤があるように歴史的に遊水機能を持っている地域であることから、スタジアム建設による影響についてどのように考えているのか。</p>	<p>治水問題であるが、亀岡市が用地調査委員会において、亀岡駅の北側で進めている土地区画整理予定地では、より治水安全度の向上を図るため、河川区域内の土砂を利用した整備を計画しており、これと同様に河川の浚渫土砂を造成に利用するを考慮しており遊水機能を損なうようなことはないと回答しているところである。</p> <p>私どもも、スタジアム予定地は歴史的に遊水機能を有する場所であることは承知しており、河川管理者と調整を図り、また河川整備計画を策定していくところなので、その中で治水上の対策を講じていくことになると考えている。</p>	<p>文化環境部理事</p>
<p>亀岡市から、駅北地域と同じような場所であるので同様の対応をすると委員会で話があったとのことであるが、河川課に言わせるとそんなことではできないと答えると思う。土砂を河川から持ってきて埋め立てに使ったからプラスマイナスゼロということにはならないし、非常に複雑な計算をしないとイケないと専門家の方から聞いたことがある。そんな単純なものではないということは、承知をしていただきたい。</p> <p>先ほども言ったが、この治水の問題も、アユモドキの問題もクリアした上で用地選定が行われなければいけないのに、何故クリアされない段階で用地が選定できたのか。</p>	<p>先ほども申し上げたとおり、建設候補地の選定にあたっては、府内市町村に公募し、用地調査委員会で議論を進め決定してきた。その上で、建設整備に係る課題について、専門家の意見をいただきながら、検討を進めている状況である。</p>	<p>文化環境部副部長</p>
<p>では、例えば、治水の問題については、河川管理者は京都府であり、用地選定の段階で河川課と協議はしたのか。</p>	<p>現在、河川課では河川整備計画を策定しているところである。整備計画を策定するにあたっては、地形が将来どのように変化していくかなどの要素も取り入れながら、流出解析など複雑な計算をし、下流への影響なども含めて、今後調査していく状況である。</p> <p>スタジアムに関しても、河川整備計画の中でどのように考えていくかをこれから検討していくものである。</p>	<p>文化環境部理事</p>
<p>だから、その問題がクリアしていないのに何故ここに用地が選定できるのか理解できないのである。例えば、事業費が安価であることを選定理由の一つにしているが、今後の検討の中で見直しが必要になることも十分にある得るのであって、このような状況で用地選定するのは何故か。</p>	<p>治水の問題に関しては、どのような施設をどのような場所に配置するかにも関わってくるので、計画が進む中で、どのような影響があって、どのような対策をしていくのか、河川管理者と今も協議しており、今後もその詰めを行っていくこととしている。</p>	<p>文化環境部副部長</p>

<p>住民の方にそのような説明をされても理解していただけないと思う。どんなものを建てるかわからないし、どのような影響があるかもわからないけど、ただここに建てることだけは決定しました、と言われても理解も納得もできない。</p> <p>今後、計画を進めていけば、まだまだ問題が出てきて、計画そのものや建設費用にしても見直しが必要になってくると思うが、スタジアムの計画変更の余地はもっているのか。</p>	<p>何回も申し上げるが、建設候補地の選定にあたっては、府内市町村に公募し、用地調査委員会で議論を進め、亀岡市が最適であるとして決定してきた。その上で、建設整備に係る課題について、専門家の意見をいただきながら、一つ一つクリアしながら進めていく状況である。</p>	<p>文化 環境部 副部長</p>
<p>7月中旬くらいに経営検討委員会を立ち上げて検討していくとのことであるが、これまで質問してきた重要な問題が後回しになっている。例えば治水の問題は、どのようなものを建てるかわからないと、結果がだせないと答弁されたが、そうであればこの計画自体が成り立っていないことになる。一旦立ち止まって見直す考えはないのか。</p>	<p>どの候補地であっても、建設整備に係る課題はあるもので、専門家の意見をいただきながら、一つ一つクリアしながら進めていく状況である。</p>	<p>文化 環境部 副部長</p>
<p>今の答弁は大変問題である。治水は後回しにしても計画は前に進めていくと私は理解した。そうした形で進めていかざるを得ない土地であることを認識する必要がある。アユモドキの問題にしても、治水の問題にしても、用地選定の段階でしっかりと検討せずに進めてきたということに大きな問題がある。知事がトップダウンで決めたとと言われてもしょうがない状況である。</p> <p>答弁を聞いていても、あいまいで、分かりにくいものばかりであり、住民に説明ができるようになるまで、一旦足を止めてしっかりと検討が必要だということを指摘しておく。</p>		